

### (3) 人間形成と思想教育部会

教育部会名	人間形成と思想教育部会
部会長名／作成者名	部会長名：松本絵理子 / 作成者氏名：松本絵理子
概 要	
<p>(1) 組織・運営について</p> <p>令和元(2019)年度の本教育部会は、大学教育推進機構 3 名、人文学研究科 7 名、国際文化学研究科 2 名、人間発達環境学研究所 23 名、保健学研究科 4 名の計 39 名から構成され、教育部会長 1 名(国際文化学研究科)、幹事 2 名(人文学研究科)が世話役になり、運営された。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <p>・開講科目、カリキュラムなど</p> <p>基礎教養科目として「哲学」(4)、「倫理学」(4)、「論理学」(8)、「心理学 A」(10)、「心理学 B」(8)、教育学 A (6)、教育学 B (3) の 1 単位科目 7 科目を計 43 コマ、総合教養科目として「科学技術と倫理」(4)、「教育と人間形成」(3) の 1 単位科目 2 科目を計 7 コマ、専門教養基礎科目として「心と行動」という 2 単位科目 1 科目を計 1 コマ分、全体で 10 科目(うち 1 単位科目 9 科目・2 単位科目 1 科目) 52 コマが開講された。</p> <p>「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と国際文化学研究科の教員、及び 5 人の非常勤講師により開講された。「心理学 A」、「心理学 B」、「心と行動」は大学教育推進機構、人文学研究科、国際文化学研究科、保健学研究科の教員により、「教育学 A」「教育学 B」、「教育と人間形成」は大学教育推進機構と人間発達環境科学研究科の教員により行われた。</p> <p>・今年度の工夫・改善点</p> <p>PC 必携化が導入され、徐々に PC を授業に活用するという意識が受講生の間にも浸透しつつあるとみられるようになったことから、BEEF の授業への活用が拡大していると考えられる。今年度の FD 講演会では本部会の教員により BEEF の授業内での活用事例が提示され、リアクションペーパー等のオンライン化による授業での双方向性コミュニケーションの促進可能性について議論がなされた。PC 必携化以前入学生も履修している事、授業のクラスサイズが大きい場合に BEEF 利用のフォローが教員一人では対応しきれない事などの課題も明らかとなり、今後、さらに対応について議論を深める必要があると考えられる。</p> <p>・現状と評価</p> <p>「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域(哲学・倫理学・論理学)、②心理学領域(心理学 A・心理学 B)、③教育学領域(教育学 A・教育学 B)から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。また、総合教養科目として「科学技術と倫理」、「教育と人間形成」という現代的な問題を扱う科目を提供し、現代的なニーズにもこたえるよう配慮した科目配置となっている。つまり、人間形成と思想教育部会は期待される教育内容をカバーする科目を提供している。また、多くの科目が 100 人以上の大教室の講義となっており、抽選となる科目も少なくない事などから、幅広い学部の学生にとり重要な教養科目として認識されているものと考えられる。</p> <p>(3) 課題について</p> <p>第 1 の課題として大教室での授業の難しさが挙げられる。本部会では大教室・大規模クラスサイズにおける講義型の授業が大半を占める。近年、大教室であっても学生参加型の授業の実施が求められているが、ほとんどのクラスが 100 名以上の人間形成と思想</p>	

教育部会では、いかに参加型の授業設計をするのか、大規模クラスにおけるそれらの導入の効果はどのようなものか、という点の検証が課題となる。これまで各担当者においては、BEEF上にリンクされた動画ファイル、DVD、パワーポイント等の視聴覚教材の使用、BEEFやコメントペーパーを用いたリアクションの収集や課題・小テスト機能を用いた理解度の確認とそれに対するフィードバックなど学生の参加を促すための努力がなされてきており、ある程度のインタラクティブな授業環境の確保はなされてきている。PC必携化より数年経過の後には環境も整備され、オンラインでの理解の確認やインタラクティブな授業構成等がより設定し易くなると考えられる。その反面、大規模授業に耐えうるような通信環境が、200名近い学生が一斉にダウンロードやアップロードを行った場合にも整備されているのか、という懸念については完全に払拭されたとは言い難いため、数年は移行期としての運用に留まることも予測される。

また、根源的な問題として教員1名での大規模クラスでは試験や日常的な課題における不正行為にどのように対処するのかという問題もある。TA・SAの予算にも限りがあり、マンパワーの不足は否めない。1講義150名程度までとするクラスサイズの削減を検討するか、あるいは一層のオンラインシステムの充実により技術的に不正行為を防ぐか等、今後検討されるべき課題である。

第2の課題として大規模クラスでの奇数クォーターの試験・採点業務の負担軽減と運用方法が挙げられる。本教育部会では、100名を超えるクラスサイズの授業が多く行われているが、第1クォーター、第3クォーターは、次のクォーター授業期間中に採点業務を行う必要があり、連続して授業を行っている担当教員にとっては極めて過剰な負担となっている。200名の試験の採点には、1名分を10分で終えたとしても30時間以上は最低限確保する必要があることを鑑みると、採点期間を設ける、マークシート方式などの併用による採点の部分的な自動化、BEEF試験の活用、補助業務者の確保、等の何らかの対応策が必要ではないかと考えられる。令和2年度より、成績報告時期の見直しが行われ、奇数クォーターも従来の前期終了時期、後期終了時期の報告と改善がなされた。この効果がどの程度負担軽減に繋がるか、また新たな課題は無いか、注視していく必要があると考えられる。

#### (4) 総合所見

全体として人間形成と思想部会の講義は必要とされる科目をバランスよく提供しているということが出来る。また、各教員の自己評価点検一覧からも、学生の授業に対する評価は高く、提供される科目の質的側面においても高い水準であるといえる。今後の課題としては、これらの高い水準が、教員個人の多大な負担により実現されてきたことを鑑みると、教員のサポート体制をいかに整えるか、大教室での学生参加型授業をいかにして実現するか、大教室の試験でいかに不正を未然に防ぐことができるか、等が挙げられる。

## **A 組織構成と運営体制について**

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか

開講する科目にふさわしい多様な専門性を持つ教員が担当し、実施体制・運営体制は概ね機能している。基本的な組織構成は大学教育推進機構 3 名、人文学研究科 7 名、国際文化学研究科 2 名、人間発達環境学研究科 23 名、保健学研究科 4 名の計 39 名であり、幹事 2 名、代表 1 名を置く体制が整備されている。

根拠資料

教育部会構成員名簿

## **B 内部質保証について**

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか

各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、BEEF のメッセージ機能やメールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか

確認されている。人間形成と思想教育部会では、ほとんどのクラスが 100 名以上であり大規模クラスにおけるインタラクティブな授業実施をいかに限られた資源で行うかが課題であるが、各担当者においては、視聴覚教材の使用、リアクションペーパーやミニレポートとそれに対するフィードバックなど学生の参加を促すための努力がなされてきている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか

組織的な授業ピアレビューに参加し、気づきを得るとともにレポートの提出によりフィードバックも行っている。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（国際教養教育委員会資料）

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか

TA・SA の採用を行って適切に活用している。TA・SA に採用された学生は授業補助業務に関して適切に助言・指導を受けて業務にあたっている。

根拠資料

神戸大学 SA/TA 実施要領・ガイドライン、SA・TA 採用者名簿、TA ハンドブック

### C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか

「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域（哲学・倫理学・論理学）、②心理学領域（心理学 A・心理学 B）、③教育学領域（教育学 A・教育学 B）から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。

根拠資料  
シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか

各教員が共通シラバス等に掲げられた授業の目標等に沿った授業を展開している。多くの教員が小テスト、リアクションペーパー及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をし、到達目標に沿ったものにする配慮を行っている。

根拠資料  
シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか

共通目標を踏まえたシラバスを各教員が適切に実施している。さらに、教育の目的に照らして、レポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施等を踏まえて到達目標を達成するにふさわしい内容となっている。

根拠資料  
シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか

単位の実質化への配慮として、多くの教員がレポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施、予習・復習課題の導入、試験対策演習の実施を通じて学生の理解を確実なものにするように講義を行っている。このような工夫により、それぞれの講義で各学生が講義の達成目標に到達しているかがはかられ、単位の実質化がなされている。

根拠資料  
シラバス、小テスト、レポート課題

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか

教育の目的に照らして、講義・演習・実験・実習等の授業形態の組合せ・バランスを適切に保つような工夫をした教育内容、学習指導法が採用されている。人間形成と思想部会が提供する科目は基本的に講義科目であり、その多くが100人を超える大教室科目のため、演習や実験・実習等を取り入れることは難しい。それを補うべく、多くの教員が小テスト、リアクションペーパー及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をしている。

根拠資料  
シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか

人間形成と思想教育部会が提供するの主に基礎教養科目であるが、これらについては同一名称科目のシラバスの授業テーマ・目標を共通なものにしており、授業内容を反映した適切なシラバスが作成、活用されている。総合教養科目・共通専門基礎科目でも、講義内容を反映したシラバスが作成され、活用されている。

根拠資料

シラバス

- ⑦学生のニーズに答え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮されたカリキュラムになっている。例えば、各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、メールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。また、授業中の配布資料も学生のニーズを満たすものである。

根拠資料

シラバス

- ⑧学生のニーズに答え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡を取り、配慮を受けることができる状態であった。また、授業後の感想やコメントなどを通じて、配慮の必要性の把握に努めた。

根拠資料

シラバス

- ⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

人間形成と思想教育部会においては、科目ごとに内容に即した成績評価基準が策定され、それがシラバスを通じて学生に周知されている。授業中に実施する小テストや課題、期末試験など結果により、周知された基準に即して適切に成績評価、単位認定が適切に実施されている。

根拠資料

シラバス、試験答案、成績分布（国際教養教育委員会資料）

- ⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか

学生による授業評価の結果として総合評価を見ると、多くの科目で5点満点中平均4点以上の総合評価が得られており、各科目における学習成果が上がっていると考えられる。また、学生からのコメントを見ても、おおむね講義に対する理解度を含めた好意的な感想がよせられている。

根拠資料

試験答案、レポート、授業振り返りアンケート結果